**校長　無津呂　弘之**

**令和３年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 本校は、「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶をめざし、高い志と夢を持って、21世紀を担うことのできる有為な人材を育てる。  １ 良識溢れる豊かな人間性を持ち、国際感覚に富んだ、社会に貢献できる、リーダーシップを取れる人材を育成する。  ２　学校をめぐる情勢の変化に迅速に対応しうる機能的な組織運営に努め、他校をリードする先進的な学校づくりを展開する。  ３ 「入りたい」「入ってよかった」、保護者や地域社会から「入らせたい」「入らせてよかった」と期待され信頼される学校を創る。 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| １　学力の向上と「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶  　（１）大阪を代表する全日制普通科単位制高校として、進学を重視した規律ある学校を維持、発展させる。  　　　ア　新学習指導要領や高大接続改革に対応し、また進路実現に向け常に適切にカリキュラムや指導と評価の研究を行なうことで、生きて働く「知識・技術」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の向上のための取組みを推進する。  　　　　　※令和５年度において、学校教育自己診断(生徒)における「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を90％にする。（Ｈ30：75％、　Ｒ１：75％、Ｒ２：84％）(令和元年度「学校経営推進費」支援校。～主体的・対話的で深い学びの実現～槻の木「探究する授業」プロジェクトにより、全教室に超短焦点プロジェクター(電子黒板機能付き)を導入。)  　　　　　イ　本校での学習活動のみで、国公立大学や難関私立大学への現役合格に必要な学力を育成する。  ※令和５年度において、国公立大学現役合格者22％以上を維持する。（Ｈ30：13.7％、Ｒ１：6.7％、Ｒ２：10.3％）  　　　ウ　土曜講習、長期休業中等の講習、週末課題等の内容を精査・改善し、進路実現のための基礎固めを図る。  ※令和５年度において、一日平均学習時間(２年生10月)110分以上を維持する。（Ｈ30：95分、Ｒ１：107分、Ｒ２：107分）  エ　「槻の木ＮＥＸＴ ＳＴＡＧＥ」（企業訪問、高大連携、国際交流・海外研修、地域連携など）の取組みや体験・発表型学習によって、思考力・判断力・表現力等を育成し、社会で生き抜くための学びに向かう力、人間性の涵養に努める。  （２）「規範なくして学力向上なし」を合い言葉に、高い志や倫理観と強い精神力を育て、学業と部活動・学校行事の両立のための支援と指導を行なう。ま  た、安全で安心して学校生活に取り組める環境を維持、発展させる。  　　ア　高い志や倫理観を持ち、学業と部活動・学校行事・生徒会活動等を両立するしなやかで逞しい生徒を育てる。  ※令和５年度において、遅刻者数府内最少レベルを維持する。  　　　イ　すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。  　（３）グローバル社会で活躍できる「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶に向けて、学校行事、生徒会活動、部活動、「槻の木ＮＥＸＴ ＳＴＡＧＥ」等の取組みにより、社会で通じる礼儀やマナーを身につけさせるとともに、主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てる。  ２　先進的で他をリードする学校づくり  （１）強い組織力による学校力の向上をめざし、授業改善、生徒指導、進路指導に取り組む。  ア　教員相互の授業見学、授業アンケートを効果的に活用し、授業改善に取り組む。  イ　先進校視察・研修参加と伝達研修・教職員研修により、教育力の向上と活性化を図る。  （２）組織的な協働体制による学校運営の確立  　　ア　教職員全員で組織的に校務に取り組めるよう効果的・効率的な組織体制を構築するとともに、常に社会や学校を取り巻く情勢の変化に迅速に対応できるよう改善に努める。また、教員がより多くの時間で生徒対応できるように業務のスクラップ＆ビルドを進める。  ３　保護者・地域から信頼される学校づくり   1. 子どもが「入りたい」「入ってよかった」、保護者が「子どもを入れたい」「入れてよかった」と、地域に信頼され誇りにされる学校づくりを続けていく。   （２）広報活動、情報発信の充実に努め、保護者・地域との信頼関係を高める。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［令和３年12月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
| 【学力の向上と調和のとれた人格の陶冶】  １．学力及び学びに向かう力のさらなる向上と進路実現  ・教員相互の授業見学の活性化、研究授業・研究協議とまとめの共有、授業アンケート結果の共有、研修、府教育課程協議会の説明動画受講等を行い、「参加体験型学習など指導方法の工夫・改善を実施」(教職員)76％（昨年:82％）については数値が下がったが、「グループ学習など学習形態の工夫・改善を実施」(教職員)97％（昨年:91％）、「思考力を重視した問題解決的な学習指導を実施」(教職員)69％(昨年69％)、「評価の在り方について話し合う機会がある」(教職員)89％（昨年:87％）と上昇傾向にあり、教職員の授業力向上への意欲には高いものがある。  ・「授業は全体としてわかりやすい」(生徒)は82％(昨年76％)。「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」(生徒)87％(昨年84％)と上昇した。  ２．規範意識、自尊感情の醸成  ・「槻の木高校は、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」は生徒94％(昨年93％)、保護者95％(昨年96％)。「規律を守った生活を送っている」は生徒96％(昨年94％)、保護者96％(昨年98％)で、高い評価を維持できている。  ・「学校はいじめなど私達(子ども)が困っていることに真剣に対応してくれる」は生徒86％(昨年83％)、保護者85％(昨年83％)、「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」は生徒90％(昨年87％)で、全ての項目で上昇している。  ・「今年の文化祭はよかった」は生徒71％(昨年80％)。「修学旅行の内容は充実している」は90％(昨年88％)で、感染症対策のため、文化祭は学年別文化発表会に変更して実施したため、満足度は下がったと思われる。修学旅行については様々な制約があったが、満足度は上昇した。  ・今後も安全安心な学校づくりと共に、規範意識、主体性、自尊感情、人間関係調整力等を育む教育を推進していく。  【学校力の向上】  ・学校経営ビジョンの明確化、進捗状況の共有、教職員の協働体制の推進、研修の充実等については「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」(教職員)は72％(昨年84％)、「事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている」(教職員)は76％(昨年88％)、「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」(教職員)は89％(昨年91％)、「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」(教職員)は77％(昨年91％)等、昨年、改善された数値が一昨年度の値に戻っており、早急に教職員への働きかけが必要である。  ・「充実した学校生活を過ごしている」は生徒80％(昨年88％)、保護者78％(昨年88％)で、ともに低下している。新型コロナウイルス感染症により様々な制約が加わり、学校生活への満足度は下がっていると思われる。生徒の安全を確保しながらできることを工夫して進め、生徒、保護者の期待に応えることのできる体制を整える。  ・「先生は責任をもって授業やその他の仕事に当たっている」は生徒91％(昨年88％)で、若干だが上昇した。  ・今後も教職員の協働体制を推進し、教育活動の活性化と学校力の向上を図っていく。 | 【第１回６月19日】  新型コロナウイルス感染症対応により書面にての開催  「令和３年度学校運営協議会名簿」「大阪府立槻の木高等学校 学校運営協議会 実施要項」「令和３年度学校経営計画及び学校評価」の３議案について、書面にて審議し、３議案とも承認を得た。  《委員からの意見》  ・「めざす学校像」にある「社会に貢献できる」人材育成への具体的な取組みは。  →「槻の木ＮＥＸＴ ＳＴＡＧＥ」、「総合的な探究の時間」や「ボランティア活動」などがある。学外の企業、大学や海外の高校などとの対外的な活動や将来について考える時間を持つことにより、社会に出てから役立つ力や生きる力を培う取組みとして実施している。  ・「１（３）グローバル人材の育成」の「槻の木ＮＥＸＴ ＳＴＡＧＥ」取組みによる生徒の満足度が非常に高いが、何人くらいの生徒が参加しているのか。  　→平成30年72名、令和元年67名、令和２年14名。新型コロナウイルス感染症の影響で昨年、今年と活動が制限されているが、台湾の高校とのオンライン交流を新規に取り入れるなど工夫して実施している。  ・「槻の木ＮＥＸＴ ＳＴＡＧＥ」の更なる進捗を期待する。特に、課題発見・解決型の探求スタイルの授業の研究・充実を期待している。一日平均学習時間が約２時間あり、生徒は、よく勉強していると思う。  ・国公立大学や難関私立大学への現役合格に必要な学力を育成する。国公立大学現役合格者22％以上をめざし、目標達成に向けた取組みをすすめる。（Ｈ30：13.7％、Ｒ１：6.7％、Ｒ２：10.3％）  ・「槻の木ＮＥＸＴ ＳＴＡＧＥ」（企業訪問、高大連携、国際交流・海外研修、地域連携など）の取組みや体験・発表型学習によって、思考力・判断力・表現力等を育成し、社会で生き抜くための学びに向かう力、人間性の涵養に努めるとあるが、さらに人として経験をさせることの最も重要なものが、日本の和の伝統文化に触れる事ではないか。人として成長していく中で、礼儀「思いやり・気配り・心配り・気遣い」が自然にできる心豊かな優しさを持ち合わせることが、社会で生き抜くための糧となるのでは。槻の木の生徒たちには、人としての一番大切な部分を学力向上に加えてしっかり学んで頂き、未来に向けて進んで行ってもらえたらと思う。日本の美しい言葉や礼儀等は昨今失われているように思う。日本の文化に触れ親しむ事は品格と誇りを持てる素晴らしいものになるのではないだろうか。  ・令和２年度は国公立大現役合格者が前年度より大幅に増加した点は評価できる。質の高い面談は効果が高いと思うので、継続してほしい。  ・志、規範、自尊感情、人権意識は個人・集団ともに必要である。学校生活全般にわたり構造化をはかり、効果的に身につけるようにして頂くと良い。  ・コロナ禍のなかで教育の在り方がどのように問われたのかをいつかまとめて議論したい。  【第２回10月30日】  新型コロナウイルス感染症に係る「緊急事態宣言」が９月30日で解除されたので、対面で実施。  「令和３年度学校経営計画の進捗状況」について審議。あわせて、「令和３年度授業アンケート（前期）集計結果」「ＧＩＧＡスクール構想の本校の状況」「観点別評価」について報告した。  《委員からの意見》  ・これからの普通科高校には、スクールミッションが必要。本校はグラデーションポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーともにはっきりしている。しかし、入学志願者があまり増えていない。ミッションがかっちりしている学校で志願倍率が厳しいというのは、非常に対応が難しい。それについてどう考えているか。  　→志願者数が減った要因の一つには、大阪府下全域で中学生が大きく減り、学校によっては１クラス減しているところもある。本校は募集学級減をしておらず、志願倍率が減少したが、入学後の生徒の意欲や意識、学力については変化がなく、ポリシーがしっかりしているので、倍率がどうであれ、本校に来たい生徒が入学してくれたと分析している。  ・英語の授業への評価が高いが理由は何か。  →毎週、週テストを実施するなど、課題等を適切に出すことにより、生徒も意識を持って取り組み、満足度が上がっているとみている。また、ＩＣＴ機器を活用するとともに、対話形式の授業展開が多く、生徒同士のコミュニケーションをとれることも満足感が上がる要因かと思われる。  ・１人１台端末の運用について、課題は何か。  →Ｗｉ-Ｆｉ接続が課題。先日も電波を取れない端末が複数台出てきた。全て予定通りに進行したこと  はまだない。安定的な接続の確保が課題。  ・学校行事のあり方について、「生徒たちに何かをさしてやりたい」ということを追求していくということが大切。やめるのは簡単で、教員、学校が努力して何とか実現していこうというその姿勢を大切にしてほしい。  ・子どもたちの心のケアについて学校全体一丸となってやっているというのは非常に良い。  ・ネクストステージで、海外との交流ができなくなっているのは非常に残念。英語のレベルをあげていくことはこれからの社会では一層必要になってくると思う。さらに力を入れていって欲しい。  ・礼儀作法や言葉遣いの指導についても力を入れてほしい。コロナの状況で難しいところはあると思うが、お互いに気配りのできるように、人を思いやる、そういう心遣いができる教育機会を設けるとよいと思う。  【第３回２月４日】  新型コロナウイルス感染症に係る「まん延防止等重点措置」期間であったが、感染防止対策を十分にとり、対面で実施。  「令和３年度学校経営計画の達成状況」、「令和４年度学校経営計画の計画案」について審議し、「高校進学に関する調査結果」、「令和３年度授業アンケート（後期）集計結果」、「令和３年度学校教育自己診断結果」について報告した。審議事項の２議案ともに承認を得た。  《委員からの意見》  ・教員の研修に対する要望を聞くべき。  ・満足度に関しては生徒、保護者の期待値が高いのではないか。  ・施設、設備などのハード面の早急な充実を求めたい。  ・教員のマネジメントと働き方改革、人員補充について。  ・協議会から府教委に「学校だけでは解決できない問題」についての提言をしていくべき。  ・計画承認のためには資料の事前配付を求める。  ・学校運営協議委員と代表生徒との意見交流、懇談会を実施したい。  ・コロナ感染症対策は評価できる。  ・生徒の授業に対する満足度と教員の業務負担は反比例する。  ・教員間のコミュニケーションについてはコロナ禍で変化している。  ・遅刻の原因についてどのように分析しているか。  ・生徒の遅刻は保護者の努力で改善できないのか。  ・コロナ感染症の影響で、生徒の集団としての規範意識が薄まっている。 |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標【Ｒ２年度値】 | 自己評価 |
| １　学力の向上と規範意識、自尊感情の醸成 | （１）学力及び学びに向かう力のさらなる向上と進路実現  （２）高い志の育成と規範意識、自尊感情、人権意識の高揚  （３）グローバル人材の育成 | （１）  ア・新学習指導要領を踏まえて、生きて働く「知識・技術」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の向上のため、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善を進める。  　・生徒１人１台端末の導入に向け、教育実践での効果的なＩＣＴの活用に係る研究を進める。  　・新学習指導要領に係る適切な教育課程の編成･実施、観点別学習状況の評価の研究を行う｡  ・生徒の学力を、学力生活実態調査等で分析し、生徒面談の充実を図る等して、進路実現を支援する。  ・キャリアパスポートを活用して職業観、勤労観育成のための取組みを行うとともに、校内での進路別説明会を行う等して進路指導の充実を図る。  イ・自学する意義の理解、課題、予習、復習等による学習時間の維持とその定着を図る。  ・学校図書館の更なる活用等を通じて読書習慣や自習習慣の定着を図る。  ウ・「槻の木ＮＥＸＴ ＳＴＡＧＥ」の取組みを継続し、企業、大学、地域と連携した体験・発表型進路学習を行う。  （２）  ア・遅刻防止週間を設定する等遅刻指導を充実し、遅刻数の府内最少レベルをめざす。  　・生徒の安全確保のため、自転車指導等の交通安全週間を設け、指導の充実を図る。  　・学校美化や教室清掃を習慣とし、学びの場としての学習環境整備に努める。  　・生徒１人１台端末の導入に向けたルール作りを行うと共に、情報リテラシーを育成する。  イ・保健課を中心に関係教員が情報を共有し、スクールカウンセラーや関係機関との連携を推進して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行う。  　・新型コロナウイルス感染症に係る対応を継続すると共に、安全で安心な学校づくりを推進する。  （３）  ・「槻の木　ＮＥＸＴ ＳＴＡＧＥ」の一環として国際交流に取組む等、国際的な視野を育て、使える英語力の向上を図る。  ・学校行事、生徒会活動、部活動、「槻の木　ＮＥＸＴ ＳＴＡＧＥ」等の取組みにより、主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てる。 | （１）  ア・学校教育自己診断(生徒)で「カリキュラムに係る満足度」85％以上を維持。【89%】  　・学校教育自己診断(生徒)で「授業満足度」を80％以上にする。【76%】  　・学校教育自己診断(生徒)における「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を86％にする。【84%】  ・学習指導室（進路、教務）、学年、教科が協力して、進路実現を支援する。  ・国公立大学現役合格16％  以上。【10%】  ・面談回数年間総数2160回以上を維持。【約2400回】  ・学校教育自己診断(生徒)で「進路について考える機会がある」90％以上を維持。【91％】  イ・一日平均学習時間２年（10月）、平日・休日平均110分以上。【107 分】  ウ・参加生徒の満足度90％以上を維持。　【－】  （２）  ア・年間遅刻者数650人以下。【953人】  ・学校教育自己診断(生徒)で「規律を守った生活を送っている」94％以上。  【94％】  イ・保健課を中心とした適切な教育相談体制による支援の継続。  ・教職員研修を、人権意識の向上、教育相談活動の充実について各々実施する。  （３）  ・新型コロナウイルス感染症に係る対応に配慮し、生徒の主体性を育む学校行事、国際交流を企画、実施する。  　・参加生徒の満足度90％以上。  ・学校教育自己診断（生徒）で「学校行事に係る肯定的回答」85％以上を維持。【85％】 | （１）  ア・学校教育自己診断(生徒)で「カリキュラムに係る満足度」は90％。(○)  ・学校教育自己診断(生徒)で「授業満足度」は82％。(○)  ・学校教育自己診断(生徒)で「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」は87％。(○)  ・カリキュラムマネジメント推進のためのプロジェクトチームを中心に新カリキュラムの編成に取り組み、完成させた。府教育課程協議会の説明動画を全員が受講し、授業改善を進めると共に、観点別学習状況評価の仮実施を行い、完全実施に向けての準備を進めた。（◎）  ・学習指導室と学年が協力し、学習状況の評価と共に、学力生活実態調査、学力テスト等を実施、分析。授業等の現状を含めて関係教員で協議、個別指導し､進路実現を支援。(◎)  ・啐啄サポート(国公立大学希望者への面談指導)を一人当たり年間５回実施。国公立大学現役合格者は15％。（〇）  ・学習状況、科目選択等の個別相談と共に、キャリアパスポートを活用し、進路実現に向けた生徒面談を約2400回（１・２年各720回、３年960回）実施。(◎)  ・学校教育自己診断(生徒)「進路について考える機会がある」は95％であった。(◎)  イ・学習習慣定着のため､週末課題(１・２年英数国)、週テスト(２年英語)､毎日の学習計画表の提出､自習室の管理運営等を実施し、家庭学習時間は２年生10月で108分。(△)  ・後期土曜講習、学力テスト３回、一日勉強会７回を実施。  ウ・「槻の木ＮＥＸＴ ＳＴＡＧＥ」大阪府立大学を訪問し、大学生によるキャンパス案内や講義の聴講により、大学を知る良い機会になった。学習に対する意欲向上も大いに見られ、満足度は100％だった。(◎)  （２）  ア・入室許可証を用いた遅刻指導、遅刻防止キャンペーンを実施したが、遅刻者数は1285人。(△)  ・年間２回の通学用自転車の整備チェック、交通安全指導を実施。  ・学校教育自己診断（生徒）で「規律を守った生活を送っている」は、96％。(○)  ・ＰＴＡ、生徒、教職員が合同で校内での花苗植えを実施。  イ・保健課を中心として､教育相談の充実のため、担任会等から生徒情報を共有し必要に応じてスクールカウンセラー（ＳＣ）との連携を図ると共に相談室の活用を推進。(◎)  ・ＳＣによる職員研修「子供と自死をめぐる現状」、専門家による職員救急救命ＡＥＤ・エピペン研修を実施。（○）  ・担任、教科担当者等が情報を共有し、ＳＣや関係機関とも連携した個別の支援を行うために、配慮を要する生徒の支援会議を年間２回実施。(○)  （３）  ・台湾のＹａｎｇ Ｍｉｎｇ Ｓｅｎｉｏｒ Ｈｉｇｈ Ｓｃｈｏｏｌの高校生とのＰｅｎ Ｐａｌ交流やＷｅｂ交流を実施した。参加生徒満足度は100%。（◎）  ・学校行事等に生徒が自主的・協力的に活動できるよう各学年を中心に指導し、修学旅行では90％が「満足」と回答。 (○)  ・学校教育自己診断（生徒）で「学校行事に係る肯定的回答」は83％。(△) |
| ２　先進的で他をリードする学校づくり | （１）強い組織力による学校力の向上  （２）組織的な協働体制による学校運営の確立 | （１）  ア・教科会を定期的に開催して教科研修を行い、授業力の向上を図る。  ・教員相互授業見学、教員研修を行う。  ・授業アンケート結果を効果的に活用し、授業改善に取り組む。  イ・積極的な府教育センター等の研修への参加と伝達研修、教職員研修、経験年数の少ない教員へのスキルアップ研修等により、人権意識の向上、教育力の向上と活性化を図る。  ・日常的なＯＪＴの推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。  ・カウンセリングマインドのある生徒指導を推進する。  （２）  ア・効果的・効率的な協働体制の確立のため、ＯＪＴの推進、業務の見える化、業務分担の見直しを継続する。  　・新型コロナウイルス感染症を含め、あらゆる危機管理事案に対し対応できる組織体制を構築する。  　・全校一斉退庁日及びノークラブデー等による働き方改革を推進する。 | （１）  ア・教員相互の授業見学、授業アンケート結果を踏まえた教科会での協議を全教科で年間２回実施。  イ・伝達研修、教職員研修の実施。  ・学校教育自己診断（教職員）で、「研修内容に係る肯定的回答」85％以上。【88％】  ・学校教育自己診断(生徒)で、「生徒指導に係る肯定的回答」85％以上を維持。【85％】  （２）  ア・学校教育自己診断（教職員）で、「教職員間の相互理解についての肯定的回答」85％以上を維持する。【91％】 | （１）  ア・全教科前後期２回の研究授業・研究協議を実施、総括や授業アンケート結果を共有する等、授業力の向上に努めた。前期88.9％、後期89.1％の生徒が授業に対し肯定的な評価をした。(◎)  　・学校教育自己診断（教職員）で、「参加体験型学習など指導方法の工夫・改善」は76％（Ｒ2:82％）、「グループ学習など学習形態の工夫・改善」は96％（Ｒ2:91％）。(○)  イ・１人１台端末活用研修、オンライン授業・ＩＣＴ機器や関連ツール活用職員研修を実施。(◎)  ・人権（同和問題）に係る伝達研修を実施。(○)  ・学校教育自己診断（教職員）で､「研修内容に係る肯定的回答」は77 ％｡(△)　研修のあり方や内容について、課題の洗い出しと改善策を講じる必要がある。  ・関係教員での生徒指導に係る意見交換に努め、学校教育自己診断(生徒)「生徒指導に係る肯定的回答」は85％。(○)  （２）  ア・今年度、オンライン授業、生徒１人１台端末の導入に向けた業務をプロジェクトチームで行ったが、令和４年度は学校運営室に新たに情報課を設置し、対応する。(◎)  ・学校教育自己診断（教職員）で、「教職員間の相互理解についての肯定的回答」は77 ％であった。(△)　教員間のコミュニケーションを活性化させるとともに、同僚性が自然と発揮される環境を構築する必要がある。 |
| ３　保護者・地域から信頼される  学校づくり | （１）子どもが「入りたい」「入ってよかった」、保護者が「子どもを入れたい」「入れてよかった」学校づくりの推進  （２）保護者・地域との信頼関係の向上 | （１）  　・授業公開、体育大会、文化祭、個人面談、進路説明会、ＰＴＡ活動等を通じ、保護者の信頼をさらに得るよう努める。  ・施設設備の改善に努め、学習環境の充実を図る。  ・創立20周年（令和４年度）に向けて、学校教育自己診断結果等を踏まえ、保護者や地域社会から期待され信頼される学校づくり、将来構想について研究を進める。  （２）  ・学校教育活動の全般について、本校生徒・保護者、中学校、中学生・保護者、地域に発信し、信頼にたる学校づくりを推進する。  ・ホームページの充実、メールマガジンの発信などにより、学校教育活動への理解と信頼を促す。 | （１）  ・学校教育自己診断「入って(入れて)よかった」生徒78％以上。【78％】、保護者90％以上。【91％】    （２）  ・ホームページの適宜更新。  ・メールマガジンのタイムリーな発信。 | （１）  ・学校教育自己診断「入って(入れて)よかった」は、生徒81％(○)、保護者78％(△)であった。  ・感染症対策のため、保護者や地域住民等の参加なしで、体育実技発表、学年別文化発表を実施した。  ・授業のみならず、修学旅行、学年行事、部活動等の全ての教育活動で感染症対策に万全を期した。  ・保護者懇談は年間２回(７月・10月)、全学年進路説明会も実施。２年生修学旅行説明会はオンデマンドにて実施。  ・ＰＴＡ活動は制限が多かったが、ＰＴＡ新聞は予定通り３回発行。  （２）  ・校内での学校説明会は８回、１回につき午前・午後の２部制で実施。人数制限を設け、ホームページで事前予約を受け付けた。（○）  ・ホームページのトップページ掲載更新は35回。後期より開始した校長だよりの掲載更新は48回（１月15日現在）(◎)  ・メールマガジンは、毎週金曜日の定期連絡を30回(１月15日  現在)、長期休業中等の緊急連絡を53回発信。(◎) |